

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700488		
法人名	有限会社ライフネット		
事業所名	グループホームももたろう(北ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂880-2		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 8 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや生活習慣を大切にし、ご家族や医療機関との報告、連絡、相談をこまめに行うことで、心穏やかに過ごしていただけるような体制も整っている。利用者様の楽しみや季節を感じていただけるようなレクリエーション企画も毎月行っている。職員に対しては毎月の職員会議後に、介護の知識や技術、避難訓練など介護現場に必要な研修を行っている。ひと月に2回までの「希望休制度」を取り入れており、他職員に負担をかけず気兼ねなく休むことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の「利用者一人一人が大切な家族」という考えを、職員は理解していて、日々の介護に奮闘している。各種研修の受講だけでなく、オンラインによる研修動画も取り入れ、自宅でも見られる工夫をすることで、職員のスキルアップが実現した。職員からの提案や要望を取り入れる体制ができており、それによって利用者の快適な生活への改善が見られた例もあり、利用者のケアの質の向上が計れた。医療に関する疑問点はすぐに看護師が問い合わせ、回答を得られたら、すぐに是正ができるなど、医療機関と密な連携が来ている。また、緊急時にも迅速に対応する体制が整っていた。職員が家族や利用者、さらには医療との関係性が大切になることで、施設全体に安心感が生まれ、【第2のくつろげる家】となっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の時に参加職員全員で社訓を読むことで理念の共有実践をしている。	経営理念は玄関に掲示していて、新人研修や月1回の会議で唱和することで浸透している。また、動画を取り入れた学習をすることで、知識を深めている。「笑顔」「安全」「安心」「心を見つめる」サービスが提供できるように職員一同日々奮闘している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加する事はあまり行っていないが、もたらう通信を地域に配信している。	近隣に住む子どもが自宅に誰もいなくて、施設を訪問してきたことがあり、そこから地域との縁が深まるようになった事例がある。その他には、近隣住民から野菜を提供されたことがあり、コロナ禍でも地域との付き合いが根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習を受け入れている。スタッフが見守り、意思疎通を一緒に行い、不安なく過ごしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な職種の方からの意見や情報交換を行い、サービス向上につながるものについては取り入れている。	2ヶ月に1回、書面にて開催をしている。参加者である町内会長、地域包括、民生委員には、書面を社長が自ら手渡しをしている。利用者の状況、事故や職員研修の内容、レクについて報告をし、出たご意見は、社長が改善に向けて日々の業務に活かしている。	運営推進会議でもっと意見が出るように工夫し、職員全員で取り組んでみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を報告や相談して適切な対応を導いていただいている。	専務と市町村は関係が深く、職員とは、事務長と密に話が出来ていて、サービスの取り組みへの連携も十分に依頼できている。わからない事や相談したい事があれば、本社を通じて連絡・対応ができる体制が整っていて、具体的な内容はケアマネが担当し、足を運んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、職員の指導や意識確認を定期的に行っている。令和2年5月4日から安全の確保として、玄関の施錠を中止している。	スピーチロックには十分配慮しつつ、「ちょっと待ってね」の言葉を使っても、必ず忘れずに対応することを留意しているから、利用者に安心して生活して頂いている。施設内で拳がった虐待事例を取り上げて研修内容に盛り込んだこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い意識付けを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のできる事とできない事を伝えている。契約改定の時は文章にて家族に伝え納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のケアマニュアルを作成しケアの参考、対応が出来るようにしている。苦情は管理者に連絡し対応している。	条件付きで通常面会や窓越し面会を可能にしていて、定期的にOn-line面会も実施している。「芋粥が食べたい」という要望があり、提供したことがあった。出た要望はスルーすることなく、些細なことでも叶えてあげられるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や業務中に管理者から声をかけ個別に意見が言える配慮をしている。	年2回、個別目標を基に専務が面談を実施して、職員の意見を吸い上げている。その結果、夜勤の回数の軽減、人員配置の工夫や希望休が取りやすい形態が実現し、職員がより働きやすい環境が整えられてきた。	意見をより反映させるために、早急に管理者も面談に参加したほうが望ましい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見れる場所にある。定期的な健康診断を行っている。また、オンライン会議や特定介護職員処遇改善算定を導入することで、仕事への向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定に基づき、内部研修を行ったり、外部研修に参加した職員は全体会議で報告している。管理者も介護職員として現場に入り、OJTによる実践技術指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、情報を得たり意見交換することでサービスや業務につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人から情報を聞き取り、安心して生活が始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや意向を聞き、不安なくサービス導入できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は必ず行っている。施設見学もしていただいている。相談内容はきちんとした返事が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に寄り添い、感情を共有し支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には随時、情報提供を行い、問題発生時には意向を確認し対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を受け入れている。贈り物のあったときは職員が連絡をし利用者様にも話しをしていただいている。	コロナ禍で外出が困難になる中で、花の水やりやユニット間の行き来が日課となり、新たに訪問リハビリの先生が親しい馴染みとなった。特に、往診の先生が来所した時には、長年のご縁が芽吹いたように会話に花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は相性のよい方同士になるようにしている。トラブル時には職員が間に入り両者が悪者にならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も生活情報を関係者にサマリーとして伝え、不安なく新しい環境で生活できるように対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た情報を参考にして、出来る限り希望や喜びを持ってもらえる努力をしている。	些細な意見でも積極的に耳を傾けるようにしている。言葉に発せない人に対しては、寄り添うことで、表情や仕草に表れるのを見逃さないようにしている。日常的に家族のように接することで、何でも言える関係ができ、職員の気づきに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞き、関わりの参考にしている。家族以外の方の面会の際にも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め、医師や看護師の指示をあわせて個々の過ごし方を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	観察をしっかり行い、計画作成者を中心にカンファレンスをして介護計画の見直しもしている。	介護計画は入所時、1ヶ月、3ヶ月毎に更新し、主治医の意見も反映している。介護度が変わった利用者がいて、会議や主治医と相談し、迅速な対応を行ったこともある。日常の業務がモニタリングに繋がり、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化も個人記録に記載して情報共有している。気づきがあれば、その都度カンファレンスを開きサービスの見直しをするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の安全と安心を最優先に考えながら出来る限りニーズに沿った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との関わりが少ないため、協働とまでいっていないので課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者の身体状況を観察し異常があれば速やかに医師や家族に連絡し対応している。必要に応じて医師からの指導や助言も受けている。	かかりつけ医は3~4名いて、かかりつけ医とは何でも話せる関係が築けている。利用者・家族の希望に合わせて対応しており、24時間体制のもと、看護師が中心となり、主治医と連携を図りながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等は速やかに看護師に報告し指示をもらい適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者や家族から情報収集を行い、早期の退院に向けて話しをしている。相談も出来やすい環境に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできることできないことを説明しその段階に応じて家族に情報提供している。	看取りはしていない。ドクターの指示により入院していただくよう対応している。入居時、看取りの指針をもとに出来る事・出来ない事を説明し、利用者・家族から同意を得ている。状態が変化した時はその都度、管理者が状況等を説明し、最終的には主治医から家族に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員への情報提供書を作成している。個別の対応が出来るようにしている。定期的な研修で実践している。間の緊急対応として、固定カメラを設置し、1名の職員が両ユニットの見守りができるようにカメラの設置をすすめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施したり研修を通して職員に周知している。施設のマニュアルや連絡をSNSのタイムラインで周知できるようにしている。	年2回、夜間で火災訓練を想定して実施した。その際に、避難場所の確認も行った。緊急連絡網は、事務所の電話の横に掲示している。備蓄は消耗品、水、おやつを3日程度保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するために言葉掛けや対応を丁寧に行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、相手の反応をみて、下の名前で呼ぶこともあり、その人に合わせた柔軟な呼び方をしている。管理者は、一人ひとりの尊厳を大切に、日々の業務に取り組んでいる。居室に入る時は、必ずノックをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに寄り添い、自己決定できるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定の時刻は決めているが個々のリズムに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は利用者様本人に伺っていただき納得の髪型にしてもらっている。2ヶ月に1回は訪問散髪している。口紅やネックレスなどおしゃれを楽しむ利用者様もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立をお伝えして食事内容を知ってもらい楽しみにしてもらっている。食後のおぼん拭きを手伝ってもらっている。	食事はケイタリングが主だが、食べたいものの要望があれば、できるだけ叶えられるようにしている。行事食として8月は夏祭りを想定して、綿菓子とお好み焼きを提供した。職員が自家菜園の食材を差し入れ、旬を感じる献立に色を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食やムース食を取り入れながら個別対応も行っている。医師や家族とも連携を図り本人の意向も踏まえながら提供量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをおこなっている。必要な利用者には訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い排泄していただいている。食前、食後には声かけ、誘導している。	トイレは各ユニットに2ヶ所。排泄チェック表を活用し、その人に合わせたリズムや適切な言葉かけをしている。不快感からオムツをずらす利用者に対しては、パットの種類を変えたら、オムツをずらすことがなくなった事例があり、職員の努力の賜物といえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分摂取していただいている。下剤服用時はしっかり水分摂取できるようにしている。便秘傾向の利用者さんには室内外に職員と出歩く事を日々の目標にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や気分に合わせて、時間を調整している。湯加減や利用者の要望はできる限り対応し気持ちよく入浴できるような努力はしている。	週2～3回。嫌がる人に対しては、日時や人を変えて対応している。利用者のベストなタイミングで入浴して頂くために、事前の言葉かけに工夫を凝らしている。入浴剤の使用もあり、「今日はピンクの湯や～」と喜ばれることがあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて、ベットで休んでいただく時間を設けている。夜間眠れない時などは話をして落ち着いてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の変更時には情報共有し理解している。誤薬予防のため、服薬前のダブルチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かして無理のないようにしていただいている。得意なことは役割としていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や玄関先で日光浴するなど気分転換できるようにしている。家族にも協力していただき、積極的に外出できるように心がけている。	遠出が出来なくなったので、施設内の水やりや洗濯干し、布団干しの手伝いをして頂いている。レクに力を入れて、クリスマスには、利用者がサンタの格好でプレゼントを渡したり、節分には、鬼になった職員に豆をまいたりすることで、外出支援に変わる取り組みがみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されてる人はいないが、欲しいものなどを聞いて家族と相談し、できる限り希望を叶えるような努力はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話は居室で話しをしていただいている。手紙等があれば連絡して話しをしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた生花や飾り物をしている。利用者の作った作品を飾っている。特に室温管理については利用者に声掛けしながらこまめに調節している。	リビングではティータイムを楽しみながら、会話が弾んでいた。蛍のちぎり絵が掲示されていて、夏を感じることができた。ちぎり絵を作成した利用者には「上手ですね」と話かけると笑顔で応えてくれた姿が印象的だった。貼り絵は毎月作成することで季節感を味わえるリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は相性を考慮して座っていただいている。居室ではゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や思い出の装飾品を置いている。	備え付けは、エアコン、カーテン、ベット、タンス。馴染みのタンスや冷蔵庫を持ち込んでいる。窓から蓮の花が見え、落ち着ける空間となっている。部屋では、カレンダーを見て毎日の日記をつけたり、折り紙を楽しんでいる利用者から、評価員にと兜や鶴、金魚の作品をプレゼントされた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場所は広くして安全に動けるようにしている。ご自分で好きなように生活できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700488		
法人名	有限会社ライフネット		
事業所名	グループホームももたろう (南ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂880-2		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 8 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや生活習慣を大切にし、ご家族や医療機関との報告、連絡、相談をこまめに行うことで、心穏やかに過ごしていただけるような体制も整っている。利用者様の楽しみや季節を感じていただけるようなレクリエーション企画も毎月行っている。職員に対しては毎月の職員会議後に、介護の知識や技術、避難訓練など介護現場に必要な研修を行っている。ひと月に2回までの「希望休制度」を取り入れており、他職員に負担をかけず気兼ねなく休むことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の「利用者一人一人が大切な家族」という考えを、職員は理解していて、日々の介護に奮闘している。各種研修の受講だけでなく、オンラインによる研修動画も取り入れ、自宅でも見られる工夫をすることで、職員のスキルアップが実現した。職員からの提案や要望を取り入れる体制ができており、それによって利用者の快適な生活への改善が見られた例もあり、利用者のケアの質の向上が計れた。医療に関する疑問点はすぐに看護師が問い合わせ、回答を得られたら、すぐに是正ができるなど、医療機関と密な連携が来ている。また、緊急時にも迅速に対応する体制が整っていた。職員が家族や利用者、さらには医療との関係性が大切になることで、施設全体に安心感が生まれ、【第2のくつろげる家】となっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の時に参加職員全員で社訓を読むことで理念の共有実践をしている。	経営理念は玄関に掲示していて、新人研修や月1回の会議で唱和することで浸透している。また、動画を取り入れた学習をすることで、知識を深めている。「笑顔」「安全」「安心」「心を見つめる」サービスが提供できるように職員一同日々奮闘している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加する事はあまり行っていないが、もたらう通信を地域に配信している。	近隣に住む子どもが自宅に誰もいなくて、施設を訪問してきたことがあり、そこから地域との縁が深まるようになった事例がある。その他には、近隣住民から野菜を提供されたことがあり、コロナ禍でも地域との付き合いが根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習を受け入れている。スタッフが見守り、意思疎通を一緒に行い、不安なく過ごしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な職種の方からの意見や情報交換を行い、サービス向上につながるものについては取り入れている。	2ヶ月に1回、書面にて開催をしている。参加者である町内会長、地域包括、民生委員には、書面を社長が自ら手渡しをしている。利用者の状況、事故や職員研修の内容、レクについて報告をし、出たご意見は、社長が改善に向けて日々の業務に活かしている。	運営推進会議でもっと意見が出るように工夫し、職員全員で取り組んでみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を報告や相談して適切な対応を導いていただいている。	専務と市町村は関係が深く、職員とは、事務長と密に話が出来ていて、サービスの取組みへの連携も十分に依頼できている。わからない事や相談したい事があれば、本社を通じて連絡・対応ができる体制が整っていて、具体的な内容はケアマネが担当し、足を運んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、職員の指導や意識確認を定期的に行っている。令和2年5月4日から安全の確保として、玄関の施錠を中止している。	スピーチロックには十分配慮しつつ、「ちょっと待ってね」の言葉を使っても、必ず忘れずに対応することを留意しているから、利用者に安心して生活して頂いている。施設内で拳がった虐待事例を取り上げて研修内容に盛り込んだこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い意識付けを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のできる事とできない事を伝えている。契約改定の際は文章にて家族に伝え納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のケアマニュアルを作成しケアの参考、対応が出来るようにしている。苦情は管理者に連絡し対応している。	条件付きで通常面会や窓越し面会を可能にしていて、定期的にOn-line面会も実施している。「芋粥が食べたい」という要望があり、提供したことがあった。出た要望はスルーすることなく、些細なことでも叶えてあげられるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や業務中に管理者から声をかけ個別に意見が言える配慮をしている。	年2回、個別目標を基に専務が面談を実施して、職員の意見を吸い上げている。その結果、夜勤の回数の軽減、人員配置の工夫や希望休が取りやすい形態が実現し、職員がより働きやすい環境が整えられてきた。	意見をより反映させるために、早急に管理者も面談に参加したほうが望ましい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見れる場所にある。定期的な健康診断を行っている。また、オンライン会議や特定介護職員処遇改善算定を導入することで、仕事への向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定に基づき、内部研修を行ったり、外部研修に参加した職員は全体会議で報告している。管理者も介護職員として現場に入り、OJTによる実践技術指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、情報を得たり意見交換することでサービスや業務につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人から情報を聞き取り、安心して生活が始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや意向を聞き、不安なくサービス導入できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接は必ず行っている。施設見学もしていただいている。相談内容はきちんとした返事が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に寄り添い、感情を共有し支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には随時、情報提供を行い、問題発生時には意向を確認し対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を受け入れている。贈り物のあったときは職員が連絡をし利用者様にも話しをしていただいている。	コロナ禍で外出が困難になる中で、花の水やりやユニット間の行き来が日課となり、新たに訪問リハビリの先生が親しい馴染みとなった。特に、往診の先生が来所した時には、長年のご縁が芽吹いたように会話に花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は相性のよい方同士になるようにしている。トラブル時には職員が間に入り両者が悪者にならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も生活情報を関係者にサマリーとして伝え、不安なく新しい環境で生活できるように対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から得た情報を参考にして、出来る限り希望や喜びを持ってもらえる努力をしている。	些細な意見でも積極的に耳を傾けるようにしている。言葉に発せない人に対しては、寄り添うことで、表情や仕草に表れるのを見逃さないようにしている。日常的に家族のように接することで、何でも言える関係ができ、職員の気づきに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を聞き、関わりの参考にしている。家族以外の方の面会の際にも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握に努め、医師や看護師の指示をあわせて個々の過ごし方を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	観察をしっかり行い、計画作成者を中心にカンファレンスをして介護計画の見直しもしている。	介護計画は入所時、1ヶ月、3ヶ月毎に更新し、主治医の意見も反映している。介護度が変わった利用者がいて、会議や主治医と相談し、迅速な対応を行ったこともある。日常の業務がモニタリングに繋がり、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化も個人記録に記載して情報共有している。気づきがあれば、その都度カンファレンスを開きサービスの見直しをするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の安全と安心を最優先に考えながら出来る限りニーズに沿った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との関わりが少ないため、協働とまでいっていないので課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者の身体状況を観察し異常があれば速やかに医師や家族に連絡し対応している。必要に応じて医師からの指導や助言も受けている。	かかりつけ医は3~4名いて、かかりつけ医とは何でも話せる関係が築けている。利用者・家族の希望に合わせて対応しており、24時間体制のもと、看護師が中心となり、主治医と連携を図りながら適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等は速やかに看護師に報告し指示をもらい適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者や家族から情報収集を行い、早期の退院に向けて話しをしている。相談も出来やすい環境に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にできることできないことを説明しその段階に応じて家族に情報提供している。	看取りはしていない。ドクターの指示により入院していただくよう対応している。入居時、看取りの指針をもとに出来る事・出来ない事を説明し、利用者・家族から同意を得ている。状態が変化した時はその都度、管理者が状況等を説明し、最終的には主治医から家族に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員への情報提供書を作成している。個別の対応が出来るようにしている。定期的な研修で実践している。間の緊急対応として、固定カメラを設置し、1名の職員が両ユニットの見守りができるようにカメラの設置をすすめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施したり研修を通して職員に周知している。施設のマニュアルや連絡をSNSのタイムラインで周知できるようにしている。	年2回、夜間で火災訓練を想定して実施した。その際に、避難場所の確認も行った。緊急連絡網は、事務所の電話の横に掲示している。備蓄は消耗品、水、おやつを3日程度保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するために言葉掛けや対応を丁寧に行っている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、相手の反応をみて、下の名前で呼ぶこともあり、その人に合わせた柔軟な呼び方をしている。管理者は、一人ひとりの尊厳を大切にして、日々の業務に取り組んでいる。居室に入る時は、必ずノックをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに寄り添い、自己決定できるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定の時刻は決めているが個々のリズムに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は利用者様本人にお願いし納得の髪型にしてもらっている。2ヶ月に1回は訪問散髪している。口紅やネックレスなどでおしゃれを楽しむ利用者様もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立をお伝えして食事内容を知ってもらい楽しみにしてもらっている。食後のおぼん拭きを手伝ってもらっている。	食事はケイタリングが主だが、食べたいものの要望があれば、できるだけ叶えられるようにしている。行事食として8月は夏祭りを想定して、綿菓子とお好み焼きを提供した。職員が自家菜園の食材を差し入れ、匂を感じる献立に色を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食やムース食を取り入れながら個別対応も行っている。医師や家族とも連携を図り本人の意向も踏まえながら提供量を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをおこなっている。必要な利用者には訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い排泄していただいている。食前、食後には声かけ、誘導している。	トイレは各ユニットに2ヶ所。排泄チェック表を活用し、その人に合わせたリズムや適切な言葉かけをしている。不快感からオムツをずらす利用者に対しては、パットの種類を変えたら、オムツをずらすことがなくなった事例があり、職員の努力の賜物といえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分摂取していただいている。下剤服用時はしっかり水分摂取できるようにしている。便秘傾向の利用者さんには室内外に職員と出歩く事を日々の目標にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や気分に合わせて、時間を調整している。湯加減や利用者の要望はできる限り対応し気持ちよく入浴できるような努力はしている。	週2～3回。嫌がる人に対しては、日時や人を変えて対応している。利用者のベストなタイミングで入浴して頂くために、事前の言葉かけに工夫を凝らしている。入浴剤の使用もあり、「今日はピンクの湯や～」と喜ばれることがあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて、ベットで休んでいただく時間を設けている。夜間眠れない時などは話をして落ち着いてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の変更時には情報共有し理解している。誤薬予防のため、服薬前のダブルチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かして無理のないようにしていただいている。得意なことは役割としていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や玄関先で日光浴するなど気分転換できるようにしている。家族にも協力していただき、積極的に外出できるように心がけている。	遠出が出来なくなったので、施設内の水やりや洗濯干し、布団干しの手伝いをして頂いている。レクに力を入れて、クリスマスには、利用者がサンタの格好でプレゼントを渡したり、節分には、鬼になった職員に豆をまいたりすることで、外出支援に変わる取り組みがみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されてる人はいないが、欲しいものなどを聞いて家族と相談し、できる限り希望を叶えるような努力はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話は居室で話しをしていただいている。手紙等があれば連絡して話しをしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた生花や飾り物をしている。利用者の作った作品を飾っている。特に室温管理については利用者に声掛けしながらこまめに調節している。	リビングではティータイムを楽しみながら、会話が弾んでいた。蛍のちぎり絵が掲示されていて、夏を感じることができた。ちぎり絵を作成した利用者には「上手ですね」と話かけると笑顔で応えてくれた姿が印象的だった。貼り絵は毎月作成することで季節感を味わえるリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は相性を考慮して座っていただいている。居室ではゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や思い出の装飾品を置いている。	備え付けは、エアコン、カーテン、ベット、ダンス。馴染みのダンスや冷蔵庫を持ち込んでいる。窓から蓮の花が見え、落ち着ける空間となっている。部屋では、カレンダーを見て毎日の日記をつけたり、折り紙を楽しんでいる利用者から、評価員にと兜や鶴、金魚の作品をプレゼントされた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場所は広くして安全に動けるようにしている。ご自分で好きなように生活できるようにしている。		